

京都観光におけるエリアイメージ構造把握のための空間布置分析 An Analysis of Positioning of Area Image of Kyoto as A Sightseeing City

西井 和夫**、棚橋 美佐緒***、川崎 雅史****、酒井 弘*****

By Kazuo NISHII **, Misao TANAHASHI ***, Masashi KAWASAKI ****, and Hiromu SAKAI *****

1. はじめに

都市のイメージは、都市およびその周辺に存在する自然地物、社会的・経済的活動の諸形態とそれに対応する都市施設、さらに都市の歴史性や文化性の基盤となる歴史・文化施設やイベント・祭事などの諸活動といった様々な風土的な因子から構成される。

これからの都市づくりにおいて、都市の個性化や魅力づくりが重要であるとの認識に立つとき、この都市イメージの計量分析の研究意義は非常に大きいといえる。

そこで本研究は、わが国を代表する観光都市「京都」を取り上げ、京都観光におけるエリアイメージ構造の特徴を把握することを目的とする。京都のイメージを考えると、観光都市としての側面に限定することについては是非論もあろうが、ここでは、年間入込み客数が4000万人といわれる観光地としてのイメージについて、そのイメージ構造を規定する構成地物間のつながり（連結性と空間布置パターン）を計量的に把握していきたい。

以下本論文の構成を述べると、まず次節では従来のイメージ分析との対比を通じて、本研究の全体フレームおよび特徴について明らかにする。次いで、本分析の具体的な対象データとなる京都観光イメージ調査の概要と基礎集計分析結果を紹介するとともに、エリアイメージにおける各地物のイメージ連結性（集塊性）の計量化にもとづき、それらを規定する構成地物を明らかにする。さらに各地物のイメージ空間上の布置パターンをモデル表現のためにLOGMAP

モデルを適用し、その結果の評価および空間布置分析手法（方法論）としての有効性について実証的に検討する。

2. 本研究における観光地イメージ分析方法

(1) 従来の都市・地域イメージ分析との関連

従来より、土木計画の研究分野において都市・地域イメージ分析はしばしばなされている。その代表的なものは、イメージ分析の主たる対象が特定な土木施設（例えば橋や道路）にあり、それと関連する周辺の構成要素を含めた広がり（空間）に関する景観評価についてである。こうした景観評価は最終的には対象施設の設計（デザイン）に供することが重視されているので、イメージ分析においても空間を構成する視覚的・物理的要素を対象とする議論が中心となっている。

また、本研究で取上げるイメージ分析に比較的近いものとして、「街のイメージ」や「港のイメージ」に関する分析がある。これらは、前述の景観評価分析と同じグループに入ると考えられるかもしれないが、以下に挙げる相違点から区別しておきたい。すなわち、

●評価分析対象は、前もって何らかの施設が特定化されていなかったり、また必ずしも物的施設だけに限定されていない。

●また、そのことに関して、抽象化やモデル化のプロセスを経て導き出されるイメージ評価（例えば認知マップや知覚マップ）やそのための方法論などが議論の中心的課題となる。

●さらに、こうした分析のアウトプットは、関連する街づくりや地域の計画案策定における基本指針やコンセプト、あるいは計画要素を定める際の基礎資料となることを期待されていることが多く、具象化・

Keywords : イメージ分析、意識調査分析

** 正会員 工博 山梨大学工学部土木環境工学科
(甲府市武田4-3-11、Tel & Fax. 0552-20-8533)

*** 学生員 山梨大学大学院土木環境工学専攻

**** 正会員 工博 京都大学大学院工学研究科

***** 正会員 (社) システム科学研究所

具現化のためのデザイン論の前段階に位置づけられる。

一方、本研究は、基本的には著者らによる地域や鉄道沿線のイメージを対象とした分析事例と同じ考え方を踏襲するものであるが、分析対象が「観光地」であることに起因して、以下に示すようないくつかの着眼点によって特徴づけられる。すなわち、

●イメージ評価主体の多様性を考慮して、とくに観光客と地元の人のそれぞれの立場からのイメージ評価の差異を注目する。

●イメージ評価対象の空間的広がりエリアごとに区分した単位で分析する。これは、エリアイメージを規定する構成地物の抽出を行うことができるからである。

●京都観光が多様な周遊行動パターンや観光活動形態によって特徴づけられることから、各エリアにある観光スポットだけでなく、当該エリアに関連するコト・イベント（名詞）を積極的に取上げ、観光スポットとコト・イベント間あるいはコト・イベント間同士のイメージのつながりに着目する²⁾。

(2) 本研究の全体フレーム

本研究では、前項で述べた観光地イメージのとら

え方に従って、各エリアのエリアイメージの構造的特徴を、構成地物によるイメージ集塊性とその評価を通じて把握する。

ここでは、そのための分析フレームと具体的手順を図-1に沿って概説する。観光都市において将来の魅力ある街づくりや交通体系を検討する上で、観光周遊行動パターンの的確な把握は不可欠な課題である（西井（1996）³⁾）。このとき、観光地のイメージ（エリアイメージ）は観光客の周遊行動に関する意思決定において最も重要なファクターの1つといえる。周遊行動パターンは、観光地に対するイメージとともに観光スポットの認知度、来訪回数、観光形態（旅行の行程を含めて）にも影響を受ける。とくに、旅行以前に形成されるメディアイメージとしての観光地イメージのかかわりが強いと考えられる。その意味から本研究は、観光交通計画における基本コンセプト策定に供する観光地イメージ分析として位置づけることができる。

図-1は、これまでの著者らによる地域イメージ研究事例を踏まえ、かつその中で用いられた分析手法をうまく活用することとし、観光地エリアイメージ構造の把握に必要な諸分析を全体の流れの中で位置づけたものである。

この中でエリアイメージ構造分析の具体的手順を説明すると、

- 1) 各構成地物間の類似度評価データとSD法による形容詞対評価データを収集する。
- 2) 構成地物間イメージの連結性ならびに想起率を用いた集計分析を行う。
- 3) 次いでこれらイメージ調査データを用いて、構成地物のイメージ空間軸上の布置座標をLOGMAPモデルの適用により、さらに属性軸上の空間布置を属性回帰分析により求める。
- 4) こうしたLOGMAP解析を行うことによって、地域の個性化・地域イメージからみて大きな規定力を持つ要素を抽出し、エリアイメージの構造的特徴を明らかにする。

3. 京都観光イメージ調査と基礎集計分析

(1) イメージ調査の実施

本調査は、観光ガイドブック・名所案内等の資料

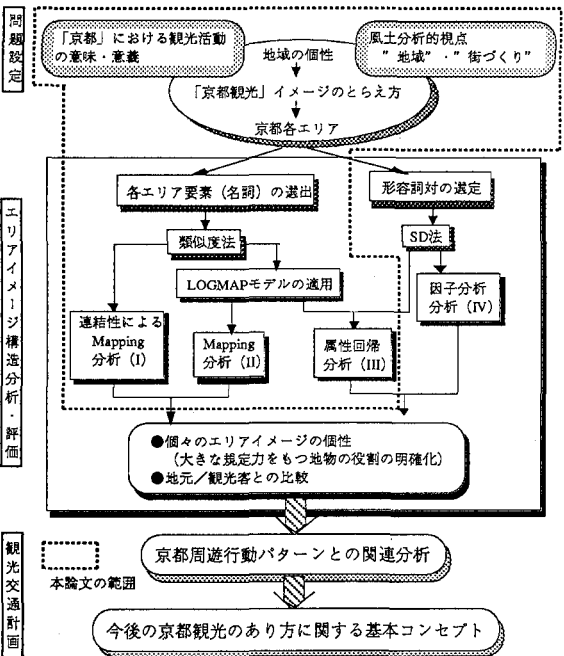


図-1 本研究の全体フロー図

表-1 京都観光イメージ調査におけるサンプル数

予備調査	洛西	洛北	洛東	洛南	洛中	全体
設定した名詞の数	182	183	189	171	185	
サンプル数	85	86	77	80	81	
本調査	洛西	洛北	洛東	洛南	洛中	全体
選定された名詞の数	32	31	30	31	31	32
サンプル数（観光客）	67	63	65	88	49	58
（地元）	53	75	65	70	62	54

をもとに京都観光の代表的な観光スポットをカバーできる京都市域（一部宇治市を含む）を対象とし、その中を洛西・洛北・洛東・洛南・洛中の5エリア及び全体に分け、各エリアごとに調査を実施した。

本研究では、本調査に用いる構成地物の選定を行うため、まず事前に予備調査を実施した。この予備調査（1996.10）では、各エリアにおける構成地物を中心に、自然地物・地名、観光スポット、観光イベント、都市・交通施設、その他（観光活動に関連地物）の5ジャンルごとに合計180個前後を抽出し、これから各被験者に、各エリアに関係深い構成地物を各ジャンル5個程度ずつ選定させた。これにより、被験者による指摘数をもとに各エリアごとに構成地物を30個前後に絞り込み、各エリアの本調査に用いる名詞を決定した。（なお、予備調査の被験者は、京都観光入込数の約7割が近隣府県者であることを考慮して、京都、大阪、神戸に在住する就業者および山梨県在住の就業者約500人を抽出した。）

この予備調査に続いて本調査（1996.11）では、構成地物間の類似度評価とともに、各エリアを代表する5個程度の『構成地物のイメージ』ならびに『各エ

リアイメージ』について、6個の形容詞対によるSD法評価を行った。この調査では、観光客と地元の人々の京都観光イメージのとらえ方の違いも把握するため、地元サンプルとして観光地エリアでの商店従業者ならびに京都市職員に対しても観光客と同様の調査を行った。表-1は、得られた有効サンプル数を各エリアごとに示す。

（2）SD法によるエリアイメージプロフィール

今回の京都観光イメージにおいては、従来の地域イメージ調査事例を参考に、本調査で用いる形容詞対を図-2に示す6つに絞り込んでいる。図-2は、各5エリア及び全体の形容詞対評価の平均値を示す。これより、まず京都全体イメージは「張りつめたーゆったりした」以外の5つの形容詞対評価で他の5エリアの平均値の上限値（or下限値）を超えている。すなわち、京都全体イメージは、全エリアの中で最も「優雅な」、最も「重厚な」、最も「格調高い」、最も「しとやかな」、最も「女性的な」イメージが形成されており、古都としての観光地イメージが最も評価されている。次に各エリアについて眺めると、洛東エリアは、京都全体イメージ評価とパターンが最も似ており、やや中心よりに評価されているエリアと考えられる。洛西エリアでは、「張りつめたーゆったりした」という形容詞対で5エリアの中で最も「ゆったりした」方にイメージされているのが特徴であり、洛北エリアは「優雅なー素朴な」という形容詞対で5エリアの中で最も「素朴な」方にイメージされている。また洛西、洛北エリア両方に着目してみると「男性的なー女性的な」の形容詞対ではほぼ似たようなイメージになっており、「軽快なー重厚な」の形容詞対で離れた結果になっている。一方、洛南エリアと洛中エリアは、京都全体イメージ評価とは異なっているケースが多い。とくに、洛南エリアは6つの形容詞対のすべてについて、京都全体イメージとは反対の評価になっている。

（3）想起率にもとづくエリアイメージを

規定する代表地物の抽出

本論文では紙面の都合により洛西・洛北エリアイメージに関する結果の一部を以下に示し、イメージ構造の特徴を観光客と地元との比較を通じて明らか

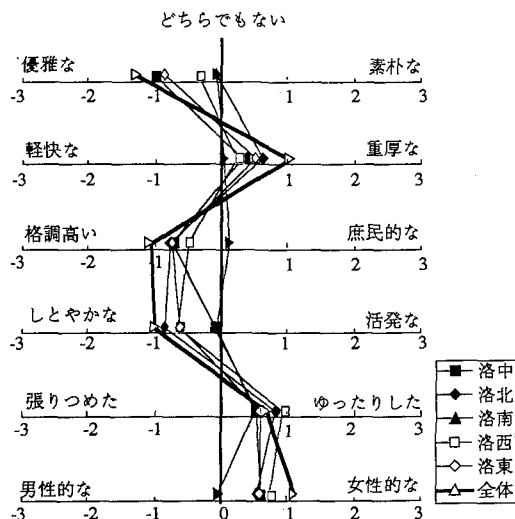


図-2 形容詞対評価によるエリアイメージのプロフィール

表-2 洛西エリアイメージに関する想起率の比較
(観光客 VS 地元)

(観光客・サンプル数67)				(地元・サンプル数53)			
順位	名前	想起数	想起率(%)	順位	名前	想起数	想起率(%)
1	嵐山	44	12.54	1	嵐山	31	17.36
2	嵯峨野	24	7.46	2	嵯峨野	23	8.68
3	金閣寺 (鷹苑寺)	22	6.87	3	渡月橋	22	8.30
4	渡月橋	18	5.37	4	金閣寺 (鷹苑寺)	19	7.17
5	養徳寺	15	4.48	5	保津川下り	18	6.79
6	紅葉	14	4.18	6	紅葉	14	5.28
7	大文字五山送り火	13	3.88	7	トロッコ列車	13	4.91
8	嵯峨祭	13	3.88	8	東映太秦映画村	11	4.15
9	保津川下り	13	3.88	9	桂川	9	3.40
10	紅葉	12	3.58	10	寛安寺	8	3.02
11	桂離宮	11	3.28	11	大文字五山送り火	8	3.02
12	寛安寺	11	3.28	12	桂離宮	7	2.64
13	トロッコ列車	11	3.28	13	嵯峨祭	7	2.64
14	東映太秦映画村	10	2.98	14	高麗	6	2.26
15	西芳寺 (苔寺)	9	2.68	15	西芳寺 (苔寺)	5	1.89
16	湯豆腐	8	2.38	16	養徳寺	4	1.89
17	桂川	7	2.08	17	湯豆腐	4	1.89
18	西山	4	1.19	18	たけのこ	4	1.89
19	京福電鉄	4	1.19	19	西山	4	1.51
20	仁和寺	4	1.19	20	嵐山・高麗パークウェイ	4	1.51
21	京福電鉄	4	1.19	21	鞍馬の夕べ	3	1.13
22	嵐山・高麗パークウェイ	2	0.90	22	千灯供養	3	1.13
23	養徳寺	2	0.90	23	京福電鉄	3	1.13
24	西陣織り	2	0.90	24	西陣織り	3	1.13
25	京福電鉄	2	0.90	25	仁和寺	2	0.73
26	千灯供養	2	0.60	26	寛安寺	2	0.73
27	たけのこ	2	0.60	27	嵯峨野	2	0.73
28	嵯峨野	1	0.30	28	精進寺	1	0.38
29	鞍馬の夕べ	1	0.30	29	オルゴール博物館	1	0.38
30	精進寺	0	0.00	30	嵯峨大仏延喜	0	0.00
31	嵯峨大仏延喜	0	0.00	31	京福電鉄	0	0.00
32	オルゴール博物館	0	0.00	32	京福電鉄	0	0.00
合計 295				合計 259			

にする。

ここでは、本調査の中で、形容詞対評価の対象として被験者に回答させた構成地物の出現回数・出現率を、想起数・想起率として、次式で定義する。

$$\text{想起率} = \frac{\text{各構成地物の想起数}}{\text{全構成地物の想起数の合計}}$$

表-2と表-3は、洛西・洛北エリアイメージにおける想起率の順位を示す。これによると、洛西エリアでは、このエリアを代表する地物は観光客と地元で共通しており「嵐山」「嵯峨野」「金閣寺」「渡月橋」で

表-3 洛北エリアイメージに関する想起率の比較
(観光客 VS 地元)

(観光客・サンプル数63)				(地元・サンプル数75)			
順位	名前	想起数	想起率(%)	順位	名前	想起数	想起率(%)
1	三千院	33	10.48	1	大原	34	9.19
2	鞍馬	32	10.16	2	大文字五山送り火	31	8.38
3	金閣寺 (鷹苑寺)	29	9.21	3	鞍馬	28	7.37
4	比叡山	19	6.03	4	金閣寺 (鷹苑寺)	26	7.03
5	嵯峨祭	19	6.03	5	三千院	26	6.49
6	嵯峨祭	17	5.40	6	東渡川	19	5.14
7	貴船神社	16	5.08	7	北山	16	4.32
8	大原	14	4.44	8	比叡山	16	4.32
9	紅葉	12	3.81	9	鞍馬火祭り	15	4.05
10	嵯峨野	11	3.49	10	嵯峨祭	14	4.05
11	大文字五山送り火	11	3.49	11	貴船神社	14	3.78
12	上賀茂神社	9	2.86	12	北山通	13	3.51
13	北山	8	2.54	13	嵯峨野	10	2.70
14	鞍馬火祭り	8	2.54	14	嵯峨野	9	2.43
15	嵯峨祭	6	1.90	15	八瀬	8	2.16
16	時代祭	5	1.59	16	北山杉	8	2.16
17	貴船の床	5	1.59	17	紅葉	8	2.16
18	北山通	4	1.27	18	貴船の床	8	2.16
19	湯豆腐	4	1.27	19	鞍馬電鉄	7	1.89
20	貴船	4	1.27	20	貴船	7	1.89
21	八瀬	3	0.95	21	嵯峨野	6	1.62
22	嵯峨野	3	0.95	22	比叡山ドライブウェイ	3	0.81
23	鞍馬電鉄	3	0.95	23	国立京都総合会議	3	0.81
24	出町柳 (駅)	3	0.95	24	出町柳 (駅)	3	0.81
25	北山通	2	0.63	25	大原	3	0.81
26	比叡山ドライブウェイ	2	0.63	26	京福電鉄	3	0.81
27	八瀬公園	1	0.32	27	北山通 (駅)	2	0.54
28	国立京都総合会議	0	0.00	28	時代祭	1	0.27
29	北山通 (駅)	0	0.00	29	八瀬公園	1	0.27
30	大原	0	0.00	30	湯豆腐	1	0.27
合計 294				合計 355			

あることがわかる。また自然地物・地名においては、観光客と地元の構成はほとんど同じであり、例外として、「落柿舎」「桂川」があげられる。次に、これら自然地物や地名など以外のコト・イベントについて比較して見ると、観光客と地元とで類似しており、この中で想起率の高いものとしては、「大文字五山送り火」「嵯峨祭」「保津川下り」「紅葉」「湯豆腐」である。この中で洛西エリアに直接関係しているコト・イベントとしては、「保津川下り」「紅葉」そして「湯豆腐」等であり、これらは行楽・自然鑑賞・グルメ関係などの活動に関係するものであり、このエリアにおける多様な観光活動形態を反映している。

一方、洛北エリアにおいて当該エリアを代表する地物としては、観光客で「三千院」「鞍馬」「金閣寺」「比叡山」、地元で「大原」「大文字五山送り火」「鞍馬」「金閣寺」である。また「寂光院」「北山通」も大きく異なっている。このように観光客と地元との想起率の差異は地物に対する認知度の差が大きな要因の1つとして考えられる。次に、自然地物や地名以外のコト・イベントについて比較して見ると、「葵祭」「時代祭」「湯豆腐」が観光客と地元との差異が大きく、「嵯峨祭」「鞍馬火祭り」「貴船の床」「北山杉」という洛北エリアに直接関係しているコト・イベントは観光客と地元とが類似しており、これらが洛北エリアイメージを大きく規定していると考えられる。

(4) イメージ連結図上のイメージ集塊性

ここでは、類似度調査の結果を用いて連想確率による基礎分析を行う。これは、図-1中の連結性によるMapping分析に相当し、各地物間相互の連想によるイメージの連結性の把握を行うことにする。本研究においては、この連結性を表す指標を連想確率 R_{ik} と呼び、次のように定義した。地物 A_i に対して、連想された地物 B_k の名詞の出現回数 N_{ik} を用いて、次式により連想確率 R_{ik} を求めたり。

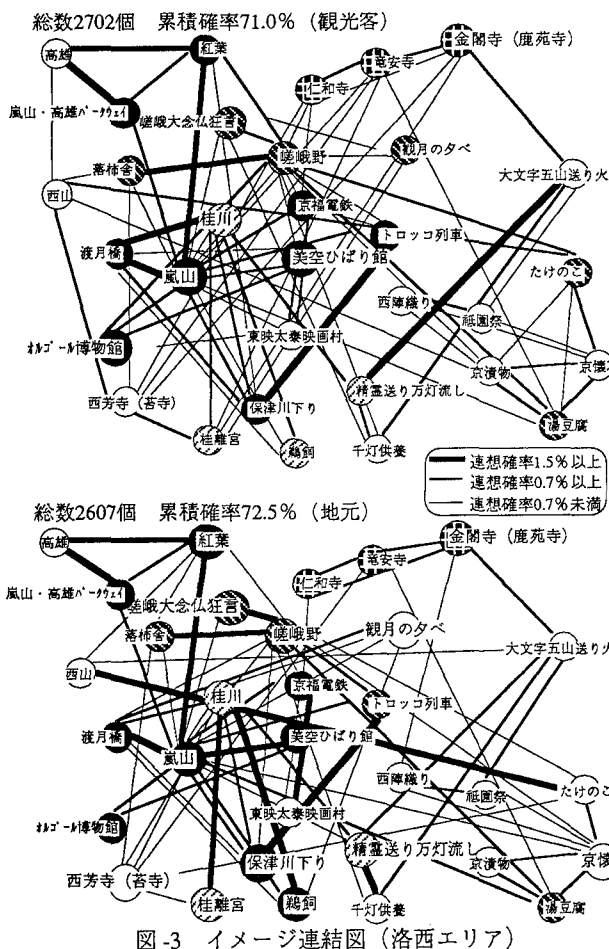
$$R_{ik} = N_{ik} / \sum_{i=1}^I \sum_{k=1}^I N_{ik} \quad (i \neq k, i=1, 2, \dots, I-1)$$

ただし、 $N_{ii}=0$

ここで連想確率とは、ある地物から別の地物への

連想が全連想の中に占める割合を示す。この連想確率を用いて各エリアの観光客と地元におけるイメージ連結図を作成し、エリアイメージと地物間の連想の関連性及びそれらの観光客と地元の差異について考察を行う。イメージ連結図の作成にあたっては、各地物の布置の方法が問題となるが、ここでは連結の強さを線の太さによって表し、地図上と同じ位置関係として描いた。また、図の複雑さを避けるために連想確率の上位からの累積が70%以上になるまでを取上げることにした。

図3より洛西エリアにおいて観光客と地元とは、全体として見るときには、地元の人の方がややまとまったイメージの結びつきを示しており、両者とも想起率の高い「嵐山」「嵯峨野」が中心となって連想のグループ(イメージの集塊)ができています。このように想起率とイメージ連結数との両者が大きいときは、そのエリアにとってランドマーク的な役割をしているといえる。また想起率の高い「金閣寺(鹿苑寺)



総数3027個 累積確率72.1% (観光客)

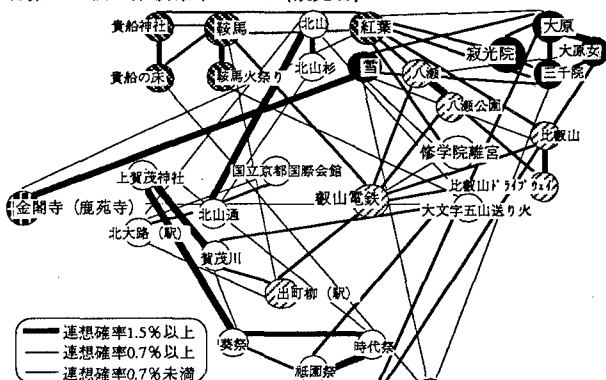


図-4 イメージ連結図(洛北エリア)

寺)」「渡月橋」は、連結数であり大きくなく、「渡月橋」は「嵐山」「嵯峨野」と直接結びついているが、「金閣寺(鹿苑寺)」はこれらから独立して小さなグループを形成している。

ここで観光客と地元の相違点に着目すると、地元の人の方ではイベント・コト関連地物(具体的には紅葉、京懐石、鶏飼等)への連結が多く、一方観光客の方ではイベント・コト関連地物同士の連結が多くなっており、京都観光での活動形態を反映している。

そこで以下では、連結が集中している「嵐山」「嵯峨野」「桂川」に着目して詳しく眺めてみることにする。

「嵐山」に関連するイメージの連結関係では、地元の人において、「精霊送り万灯流し」「京懐石」「観月の夕べ」といったイベント・コト関連地物への連結がやや強くなっているといえる。

「嵯峨野」イメージの連結関係に関しては、観光客の方で「オルゴール博物館」「美空ひばり館」への連結が特徴的といえ、一方地元の人においては、「嵯峨

大念仏狂言「保津川下り」といったイベントへの連結が強くなっている。

「桂川」は、若干地元の方が連結関係が多様であり、「桂離宮」「西芳寺(苔寺)」といった観光スポット、および「観月の夕べ」「鶺鴒」といったイベントとの両方に強い結びつきを示している。

図-4より洛北エリアにおいては、全体的には、観光客と地元のイメージの結びつきに大きな差異は見られない。洛西エリアのように想起率の高い地物が中心となって大きな連想グループを形成することはないが、「大原」周辺および「鞍馬」周辺の関連地物間でそれぞれ小さな連想グループが存在する。また両者とも、「紅葉」「叡山電鉄」「北山」のように想起率はあまり大きくないがイメージ連結数が大きいものが存在している。このように連結数が大きいものは、当該エリアのエリアイメージを規定していると考えられる。

一方両者の相違点に着目すると、洛西のような観光客の方でのイベント関連地物同士の連結関係は見られない。以下では、想起率が大きかった「大原」「鞍馬」「金閣寺(鹿苑寺)」に着目してみることにする。

「大原」に注目して見ると、地元の人において「紅葉」といったイベント・コト関連地物への連結が強くなり、また「八瀬」という地名への連結が見られる。

「鞍馬」に関しては、「大原」とは異なり観光客において「紅葉」といったイベント・コト関連地物への連結が強くなり、逆に地元の人においては「出町柳(駅)」という都市・交通施設への連結も見られる。

「金閣寺(鹿苑寺)」においては、観光客の方で「雪」

への連結が強いのが特徴的であり、これに対して地元の人は「北大路(駅)」といった都市・交通施設への連結が見られる。

4. LOGMAPモデルの適用

(1) LOGMAPモデル適用の手順

LOGMAPモデルは、片平(1987、1991)により開発された類似度データに基づく知覚マップを作成する手法の1つである。

このLOGMAPモデルでは、対象となる地物間の類似度データを用いてRank-Ordered Logit Modelを同定化することによって、各地物の知覚マップ上の空間座標値を推定する前半のステップと、これより得られた座標値に意味づけするための後半のステップである属性回帰とに分けることができる。

ここで前半のステップで得られた知覚マップは、地物全体の布置を明らかにすることはできるが、座標自体が意味を持つものではないため、各地物がなぜその位置に布置されているのかを読みとることは難しい。そこで、SD調査における各地物の形容詞対評価値を用いて、知覚マップ上に意味のある形容詞対軸を取り込むことにする。属性回帰では、SD法による形容詞対評価の平均値を被説明変数、LOGMAP解析によって得られた各地物の座標値を説明変数として重回帰分析を行い、回帰平面までの距離を算出することによって、各地物の各軸で見た評価値を求める。(なお、これら一連のLOGMAP手法の適用手順については著者らによる既存の研究事例^{9)・10)}を踏襲している。)

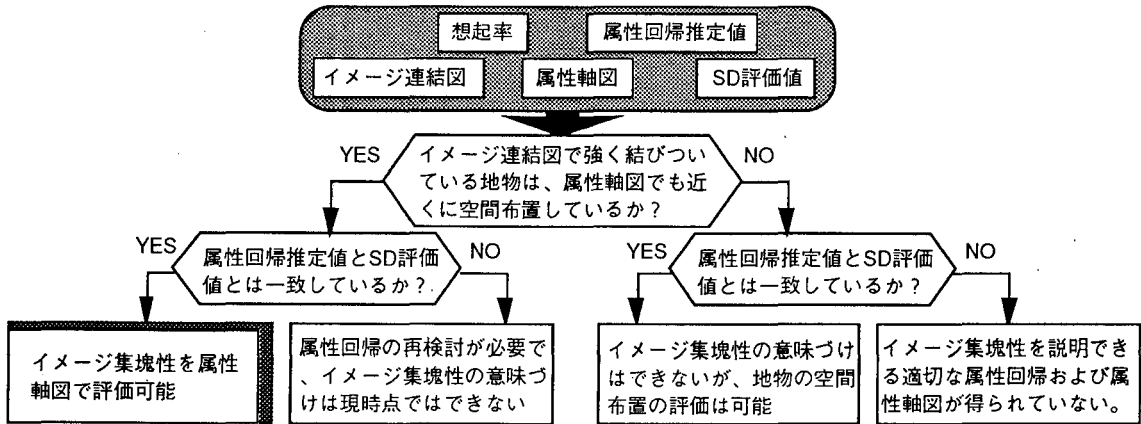


図-5 イメージ集塊性(空間布置)評価のための手順

ここでは、各属性軸においてすべての地物の空間布置が説明できるわけではなく、ある軸においてはある地物しか説明できないこともあるため、着目している属性軸ごとに解釈評価が可能な地物を決定することにする。図-5は、この手順を簡単に示したものである。これより、

1) まず、想起率・イメージ連結図より各エリアの着目すべき地物を選び、属性軸図での評価との関係を明らかにしていく。

2) 次に、イメージ連結図において着目すべき地物とそれに関連する地物からなる「イメージの集塊」の意味・解釈について検討する。このとき例えば、イメージ連結性が強くまた属性軸布置も近くにある地物のグループは、最終的には属性軸上での解釈評価ができるものと判断する。逆に、稀なケースとして、属性回帰推定値とSD評価値とが一致しないケースもあり、この場合に、属性回帰の再検討を行うこととし、この時点では属性軸図から除くことにする。

3) また、イメージ連結性と属性軸布置は一致しないが、属性回帰上の推定値とSD評価は一致している場合は、イメージ連結でのつながりには属性評価とは異なる他の理由が存在している可能性があるため、必ずしも、属性軸上での評価自体は誤っているとはいえない。この場合に、地物の空間布置に関しては属性軸での解釈評価ができる地物とみなすことにする。なお、イメージ連結性と属性軸布置とが一致せず、かつ、属性評価とSD評価とも一致しない場合は、当該地物と着目属性軸は関係しないとし、これらは、属性軸図上での評価対象としないことにする。

(2) 属性回帰分析結果の評価

図-6は、洛西エリアにおける「優雅な-素朴な」軸について前項で述べた具体的手順に沿って地物の空間布置を行ったものである。

これより、「嵐山」周辺の地物は、観光客からはこの軸についての評価がなされず、一方地元においては、「嵐山」はどちらでもない評価、「渡月橋と美空ひばり館」はやや優雅な評価、「嵐山・高雄パークウェイ」は素朴な評価になっており、また「嵐山」は「渡月橋と美空ひばり館」のイメージと「嵐山・高雄パークウェイ」のイメージの中間的なイメージを持たれ

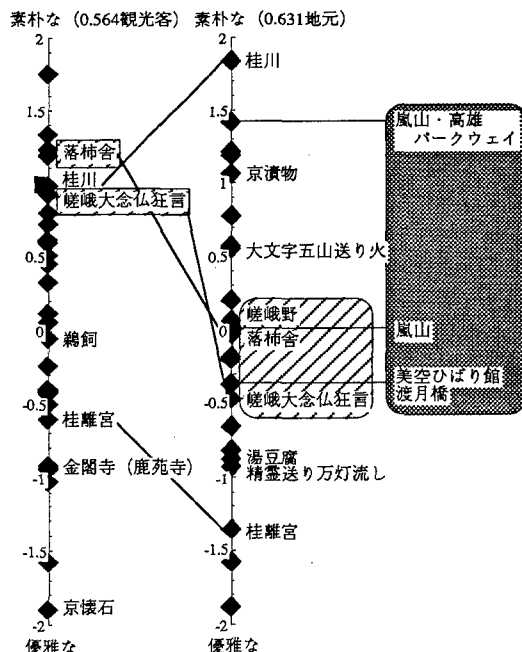


図-6 属性軸上への空間布置の比較（洛西エリア）

ている。これは、地元において嵐山周辺全体でまとまったイメージを形成しているといえる。

一方、「嵯峨野」周辺では、観光客において「落柿舎と嵯峨野大念仏狂言」が素朴な評価がなされている。地元の人においては、「嵯峨野」はどちらでもない評価、「落柿舎と嵯峨野大念仏狂言」はやや優雅な評価になっており、観光客と地元とではこの属性評価についてのイメージが異なっている。

(3) イメージ集塊性に関する評価

表-4と表-5は、属性軸図における主な地物に関して評価軸を横にとり、観光客と地元とイメージの集塊性について比較ができる表にまとめたものである。表-4より、洛西エリアでは、地元の人の方が「嵐山」周辺「嵯峨野」周辺とも、多くの軸について評価しており、地元の人の方が洛西エリアをより多様なイメージとして捉えている。「嵐山」周辺では、「張りつめた-ゆったりした」軸が両方で評価されているが、この軸では「嵐山・高雄パークウェイ」以外は観光客と地元の差異は小さくなっている。「嵯峨野」周辺では、観光客の方でどの軸においても「嵯峨野」の評価が大きく異なっている。一方地元の方は「しとやかな-活発な」および「張りつめた-ゆったりした」の2軸でまとまった評価がなされている。

またイメージ連結図における集塊性との関係を見
てみると、観光客と地元の両者において「嵐山」周辺
では「嵐山・高雄パークウェイ」とその他の地物とい
う形で連結関係が見られる。一方、属性回帰の結果で
も「嵐山」周辺地物4つが同時に評価できる軸が抽出
できたため、「嵐山・高雄パークウェイ」を含んだ「嵐
山」周辺のイメージのグループが形成されていると
解釈できる。

「嵯峨野」周辺では、観光客においてはイメージ連
結図と異なり、「嵯峨野」周辺3つの地物が同時に評
価できる軸がなく、地理的な位置関係だけでグルー
プが形成されている恐れがある。地元の人において
は、「しとやかなー活発な」「張りつめたーゆったりし
た」軸で、連結図と同様に近くに布置されており、
「ややしとやか」で「やや張りつめた」イメージのグ
ループが形成されていると解釈できる。

洛北エリアでは、洛西エリアとは異なり、観光客の
方が「鞍馬」周辺「大原」周辺とも、多くの軸につい
て評価しており、洛北エリアをより多様なイメー

表-4 属性回帰結果 (洛西エリア)

		格調高い ↔ 庶民的な	しとやかな ↔ 活発な	張りつめた ↔ ゆったりした
観光客	嵐山			
	渡月橋			
	美空ひばり館			
	嵐山・高雄パークウェイ			
地元	嵐山	2	2	
	渡月橋			
	美空ひばり館			
	嵐山・高雄パークウェイ			
観光客	嵯峨野			
	落柿舎			
	嵯峨大念仏狂言			
	嵯峨野			
地元	嵯峨野			
	落柿舎			
	嵯峨大念仏狂言			
	嵯峨野			

表-5 属性回帰結果 (洛北エリア)

		優雅な ↔ 素朴な	格調高い ↔ 庶民的な	しとやかな ↔ 活発な
観光客	鞍馬			
	貴船神社			
	鞍馬火祭り			
	貴船の床			
地元	鞍馬			
	貴船神社			
	鞍馬火祭り			
	貴船の床			
観光客	大原			
	三千院			
	寂光院			
	大原女			
地元	大原			
	三千院			
	寂光院			
	大原女			

ジとして捉えている。「鞍馬」周辺、「大原」周辺では、
具体的に観光客と地元の人とで各地物を比較できる
軸が少ししかないが、「大原」を「しとやかなー活発
な」と「張りつめたーゆったりした」の2軸で比較す
ると、観光客で「しとやか」で「ゆったりした」評価
がなされており、地元では「ゆったりした」評価がな
されている。

5. おわりに

本研究は、京都観光におけるエリアイメージ構造
の諸特性を計量的に把握するために、構成地物間の
類似度評価データにもとづくイメージ連結性ならび
にLOGMAPによる属性軸上への空間布置特性に関す
る分析方法の提案ならびにその適用結果の考察を
行ったものである。

また本論文では、「観光地」のイメージ形成の特徴
点としての評価主体および評価対象地物の多様性、
ならびに空間的な広がり・周遊性に着目することと
し、京都市域を5エリアに分割し、観光客と地元の両

者のイメージ評価の比較を前提とした枠組みの中で
具体的な分析・検討を行ってきた。これらの結果
については前節までの議論の中ですでに述べられ
ているので、以下では、本分析手法の適用性なら
びに今後の研究の方向性にかかわる諸課題を整理
しておくことにする。

●エリアイメージの空間布置特性分析手法の洗練
化

本研究では、地物間の類似度評価データに基づ
イメージ連結図による方法とLOGMAP・属性回帰
による方法の2つを提案し、最終的にはこれら2つを
比較検討しながら地物の空間布置の解釈・評価を
行った。このうち前者の方法は、簡便で直接的ではあ
るが、その評価の軸は特定できない。一方、後者の方
法は、手順も複雑で仮定も多いが、属性軸の形でイ
メージ評価を明示的に扱える。そのため、本研究では
両手法の特徴をそれぞれ生かした方法を提案した。

したがってこの方法は、少なくともエリアイメー
ジ形成パターンの多様性に対応でき、出力され
た結果についての説得力のある解釈・評価も可能
となる利点をもつといえるが、全体としては複雑で
手数の多い評価方法であるため、その操作性や実用

性に関しては課題を残している。

●イメージ分析対象の選定やとらえ方への配慮

イメージ分析は、本来多様なイメージのとらえ方があるにもかかわらず、それを抽象化や一様化してしまうという指摘がしばしばなされる。本研究でも地物の名詞を刺激として扱った場合の言語イメージに限られ、さらに、被験者は京都観光イメージについて制限的な連想を通じた回答を行っているため、イメージの抽象化・一様化を回避できない面があることも事実である。本研究においては、予備調査の活用による地物の選定に配慮したこと、またコト・イベント関連の地物を含めることによって言語イメージに広がりや幾分与える等の工夫を行ってきた。しかし、分析結果の評価や解釈においてはこうした問題点に十分対応していく必要があるとともに、その限界についても考慮できなければならない。そして、個人のエリアイメージ形成プロセスの特徴やその中での構成地物の果たす役割・意味を注意深く扱う姿勢が何よりも求められるといえる。

●今後の研究の方向性

本研究は、今後京都観光イメージと周遊行動・京都の魅力度との関係を明らかにすることにより、京都観光イメージの向上につながる観光スポット及びエリアの整備指針と周遊行動パターンを規定する交通施策整備メニューの提示が可能となる。また、これらの分析と併行して、地元の人によるイメージ結果を取上げ、さらに掘り下げて風土分析的な評価もしていく必要もあり、また将来の京都の魅力ある観光地づくりをエリアの風土的特性と整合させて進めるための計画手法も重要な課題の1つと考えられる。

〈参考文献〉

- 1) 西井和夫、佐佐木綱：風土分析にもとづく都市・地域計画の新たな展開、土木計画学研究・講演集、No.15 (2)、pp.143-147、1992
- 2) 西井和夫、川崎雅史、棚橋美佐緒、酒井弘：京都観光イメージ構造の空間布置に関する基礎分析、土木計画学研究・講演集、No.20 (1)、pp.351-354、1997
- 3) 西井和夫：これからの観光交通計画の課題、交通工学、vol.31、No.5、pp.3-8、1996
- 4) 西井和夫、鈴木康仁、古沢経夫：地物の類似度に着目した地域イメージ構造分析：甲府と東山梨への適用、山梨大学工学部研究報告、No.42、pp.105-114、1991 a
- 5) 西井和夫：地域イメージとその構成に関する風土分析手法、土木計画学研究・講演集、No.14 (1)、pp.213-220、1991b
- 6) 西井和夫、土井勉、木内徹、三浦啓江：LOGMAPモデルの鉄道沿線イメージ構造分析への適用：京王線路線間比較、第30回日本都市計画学会学術研究論文集、pp.247-252、1995 c
- 7) 西井和夫、土井勉、三浦啓江、棚橋美佐緒：鉄道沿線イメージ構造把握のためのLOGMAP：属性回帰に関する実証的研究、土木計画学研究・論文集、No.13、pp.49-56、1996 a
- 8) 西井和夫、棚橋美佐緒、土井勉、木内徹：鉄道沿線に関する構成地物の言語イメージの空間布置にもとづく構造的特徴の把握：普通名詞と固有名詞の差異に着目したLOGMAP分析、土木計画学研究・論文集、No.14、pp.107-114、1997

京都観光におけるエリアイメージ構造把握のための空間布置分析

西井 和夫、棚橋 美佐緒、川崎 雅史、酒井 弘

本論文では、観光都市「京都」のエリアイメージの構造的特徴を当該エリアの観光スポットやイベントといった構成地物に着目して計量的に分析する。そのために、各構成地物間の類似度評価データにもとづくイメージ連結図ならびにLOGMAPによる属性軸図、そして形容詞対評価データを用いたSD評価法の適用をそれぞれ行い、エリアイメージの空間布置特性を明らかにした。これらの分析結果より、観光客と地元とのエリアイメージ構造を規定する構成地物の抽出ができ、さらに両者の差異をイメージ集塊性や属性軸での特徴点として把握できた。

An Analysis of Positioning of Area Image of Kyoto as A Sightseeing City

By Kazuo NISHII, Misao TANAHASHI, Masashi KAWASAKI and Hiromu SAKAI

In this paper, the area-image of Kyoto as a sightseeing city is characterized by the positioning and meaning of the related excursion spots and events. The similarity data among these spots and events are used for developing a LOGMAP model. In this modelling, Kyoto city is divided into five areas, about thirty spots and events are selected through a preliminary survey and six adjective pairs are also used for evaluating image of dominant elements in the regression analysis. The results indicate that each area has some of the typical spots determining the whole image of the area. They also presents that there are significant differences in image connectivity between visitors and habitants for each area.
